

●木津川希少種生育調査管理業務の除草と運び出しを1月12・13・14日の三連休で実施しました。木津川市加茂町部分の収集と持ち出しを有田 深田 大釜 森島 山村の大奮闘で無事に終了。予想に反して収集作業に手間がかかり21袋(35・36番地分)になりました。軽トラックへの積載は最大で4袋です。同じ加茂町の30・31・32番地では9袋分でした。そして26・27番地では地元農家の皆さんが夏野菜の雑草の繁茂を押さえる材料として刈草を収集されて持ち帰られています。再利用されることになって、収集と運び出しが不必要になりました。大助かりです。

●次ぎの運び出し作業は19日 八幡市川口になります。国道1号線と府道八幡～木津線の交差点のヤマダ電機駐車場にご集合をお願いいたします。春一番に芽吹きをする「イヌナズナ」の生育地の刈草の収集と運び出しを行います。今年の春は早いらしいとされています。3月初旬にはイヌナズナに出会えると思います。できるだけ早く環境を整えてやりたいものです。約2時間の作業で、12時には終了予定です。大勢のご協力をお願いいたします。約100mの長さを保護管理しています。

●1月24日(木) キャンパスプラザ(京都駅前)で「京都府レッドデータブックを学ぶ」勉強会

これは自然環境保全京都府ネットワークが主催するものです。会長に竹門康弘京都大学准教授、副理事長に宮崎俊一乙訓の自然を守る会会長、事務局長に山村武正が当たっています。今回は昨年に引き続き第2回目の勉強会で 京都府のレッドデータブック植物編の担当者である同志社大学前准教授で里山の会の顧問をお願いしている光田重幸先生の講演が行われます。長年お世話になっている先生のお話が聞けるいい機会です。こぞってご参加をお願いいたします。資料代は500円ですが、里山の会を通じて申し込みをされた会員さんには、里山の会かが負担をいたします。大至急ご連絡をお願いいたします。先着順で受付が行われます。150人定員なので、至急ご連絡をお願いします。住所氏名をご連絡ください。お待ちしております。

●カスミサンショウウオ生息池の環境測定装置設置を目指して試験運転中です。この装置は気温水位水温の測定と生き物の侵入を撮影するモニターカメラで一式となります。里山の会の事務所前の太田敏之さんが自宅の庭でテスト中です。昨年八千代エンジニアの山田啓介さんから、測定器を借用させていただきました。それで1年間のデーターが収集できていると思われます。いつまでも好意に甘え続けることもできませんので、現状をお話して、太田さんの了解があつて、テストを行っていただいています。できるだけ早く自力での測定ができればと思っています。ご指導には顧問の桜谷先生からの助言もいただいて進めています。年末にナラ枯れ巨木の伐採を決行、その取り出し除去を計画中で、下準備を**1月21日22日第1回作業**に取組みます。ご都合のつくお方のご協力をお願いいたします。両日とも午前9時に里山農園前駐車場にご参加をお願いいたします。山靴と山作業の服装をお願いいたします。鎌や鋸などの用具を持参ください。もちろん手袋もお願いします。水筒、昼食もご持参をお願いいたします。下草刈りや小枝の払い落としが中心の作業になります。

最初に雑草排除を行い、作業広場や持ち出し通路の幅確保を行う行動時の安全を確保する最も重視する作業です。慌てず焦らず丁寧な作業を心がけましょう。次に通路の設置ルートの確定をおこないます。斜面に杭を打ち込み足場板を受ける栈木を渡します。足場板のところでカーブや斜面角度の調整をしますので、この足場杭の設置が重要になります。こうした点を考えて必要な材料の準備をします。もちろん使用する道具も考えなければなりません。設計図的なものが用意できて全員で一致すると、めいめいチームに分かれて作業を開始します。通路が完成すると安全を確認して、作業中での故障や事故が発生しないか安全を確かめます。ここまで出来上がると段取り八分とよく言ったもので、もうほとんど作業は出来上がりに近づいたものです。最終段階に差し掛かり、いよいよ巨大木の玉切りに挑戦です。長さ40cmで切断箇所にしるしをつけて順

次上部から切ります。チェーンソーが食い込まれないよう、挟み込まれないように重心を考えて作業を行い30分間隔で休憩を取ります。その時振り返りを行い作業の安全確認をします。無理をしないで軽く作業が進められるように知恵を出し工夫を重ねます。小さく切っても生木は予想以上に重量があります。手や足、腰に架かる重量はかなりになります。腰を落として腰痛にならないように十分注意して取り組んでいただきたいものです。二人での作業は必ず掛け声をかけあい、相手と呼吸を合わせて作業を行うようにしてください。常に相手の姿勢や状態に気を配って、独りよがりの作業にならないように注意してください。くどいようですが、複数人による作業は声を出して、息を合わせて、相手の準備を確認してからヨイショと始めることが大切です。

●京田辺市社会体育協会と京田辺市教育委員会は河川敷運動公園などの施設借用申込時に NPO やましろ里山の会発行の「普賢寺地域の宝物」や「木津川の希少植物」のパンフレットを配布されています。そのパンフレットには希少植物寸前種のレンリソウ フナバラソウ マキエハギ イヌハギ カワラサイコ スズサイコ オオバクサフジ クサフジ等木津川堤防に生育する絶滅危惧種が掲載されています。また普賢寺は京田辺市の宝庫でキンラン ギンラン タツナミソウ ウメバチソウ タヌキマメ コ克蘭 ムヨウラン等ここでも絶滅寸前種の草花と、外来種のブルーギルやブラックバス、ホソオチョウなども掲載されて、自然の豊かさを知らせ、その保全維持を呼び掛けています。こうしたパンフの配布は3年前から行われています。里山の会の長年の取組みに対する理解が深まって生きています。こうした協力連携が深まっています。こうした取組みが淀川管内河川保全利用のてびき(案)に京田辺市の取組みが紹介されています。

●まもなく36回の木津川マラソン(2月3日)へのかかわり方について 里山の会では実行委員会に対して、精算方式ではなく契約方式での協力を申し入れて来ましたが、話が折り合わなくて、参加者の輸送部門に関して、里山の会が独自で取り組むことになりました。整備協力金負担駐車場の運営と選手輸送サービスに関してのみ責任を持つことになり、それ以外の部署の担当を外れます。従って、駐車場とタクシー関係を完全にこなすこととなります。これまで多くの部署でかかわっていただきました皆様には諸事情をお察し頂きまして、この二つの部署への積極的なご支援ご参加をお願いいたします。担当責任者は播川理事長にお願いをしております。ご連絡を頂ければ幸いです。

●3月17日(日)神戸国際会議場で日本生態学会が開催され、中西康太君(大住中2年生)が日頃の研究成果を発表することになりました。現在最後の観察調査に取り組んでいます。金田さんや桜谷先生の助言を受け、木津川堤防や里山農園付近での最後の追い込み調査に頑張っています。2月2日には桜谷先生がカスミサンショウウオの調査に来ていただけなので、ここで調整整理を予定しています。康太君の説明発表は11時から12時までの時間に指定されています。応援に駆けつけていただければありがたいです。

●小川力也先生は昨年3月に長年勤めておられた富田林高校を退職されて「力塾」を開設されて、子どもたちと一緒に学習に励んでおられます。現在小川先生はやましろ里山の会の顧問を引き受けていただいております。学生時代木津川でイタセンパラの研究を行って、淀川水系では自然状態で最後まで生息を確認されている先生で、木津川で復活を目指す一番の理解者です。現役の高校教師をなげうって、塾を開設されたことには、並々ならぬ決意が無ければできないことです。情熱にあふれた先生なので、大いに活躍が期待されています。

●現地説明会の日程が決まる 今年も「木津川はどんな川」の現地説明会を、山城地域の町村6か所での開催になります。2月9日(土)井手町 勤労者福祉会館、10日(日)久御山町 中央公民館、11日(月・祝日)精華町 けいはんな記念公園研修室、16日(土)笠置町 産業振興会館、24日(日)南山城村 やまなみホールとなりました。